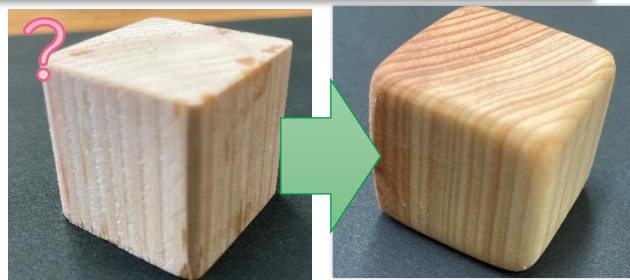


5年1組

木に働きかける中で見えてくる
わたしたちのより良い暮らし
～木の魅力を探した3か月間～



木の魅力って何だろう？



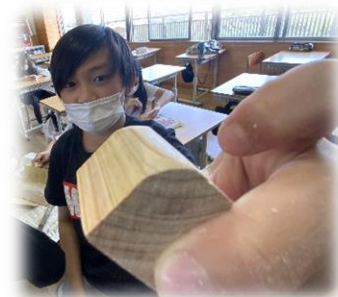
総合の授業では、子ども達に、昨年度の総合で学んだことを聞くことから始めました。「石にはたくさん種類があることを学んだ」「石の魅力をいっぱい知ったよ」「最初は石ころだったのが、『石様』になったよ」と、自分達のくらしの中心にあった石について語りだす子ども達。Aさんは、「石は磨くと進化するのではなく、生まれ変わるんだよ。本当に生まれ変わるんだよ」と教えてくれました。石と向き合い、その魅力を感じ、自分達の手で追究してきたからこそ、言葉に力を感じます。

そんな子ども達にあるものを提示しました。それは私が磨いた「木」です。石を磨いていた子ども達に、事前にどのように磨いたのかを聞くと、何種類ものやすりで磨いたと教えてもらいました。「もしかして木も磨くと何か変わるのでは」と思い、教えてもらった方法で磨き、最後にオリーブオイルでコーティングしたところ、写真のようになりました。見た目も違うのですが、実際に触ってみると、その触感の違いにも驚かされます。

「木の魅力を一緒に探してみませんか？」という私の問いかけに、動き出す子ども達。早速机の上に並べたブロック状の桧（ひのき）から、Aさんは、「これが俺の相棒だ」と手に取り、友達と磨き始めました。

「うわ、石より柔らかくて削りやすい。この丸くなったところを触っていると気持ちいい」という発見をしたBさん。その磨きやすさに驚くとともに、「柔らかいから削りすぎてしまいそう」と石との違いを確認しながら取り組んでいました。Cさんは、「先生、なんかいい匂いがする。新しい家の匂いがする」とその香りに着目していました。「石はあまり匂わなかったけど、木には独特の香りがあるから、これも木の魅力だね」と木にしかない良さを見つけて嬉しそうでした。Dさんは、「木って色々種類があるでしょ。松の木ってどんな感じなんだろう。比べてみたい」と、その種類に興味を示しており、これからの活動につながる目を持っているように感じます。

30分ほど磨いた後に、「どう、木の魅力が何か見つかった？」と聞くと、大きくうなずいたEさん。話を聞くと、「木っていろいろできそう。削りやすいし、加工しやすいし、自分の思った通りの形に変えられるからいろいろやってみたい。1年間じゃ足りないくらいかも」と語っていました。そんなEさんはこの日の日記に次のように綴っていました。



「木」「木」「木」の大ニュース

初めてではないけど、初めて知った木。今日出会ったのは、「ひのき」。いつも近くにいる木も、石みたいにならなくていいです。どういう風にちがうかというと、（わたしたちの）見る目がちがくなります。たとえば、「いい匂いがする」「みがいて手でさわると、ツルツルになる」こういったように、木にはまだ知らないことがもりだくさんです。いろんな物を木でつくりたい、木の大切さや、木のことをいっぱい知りたいです。今日の大ニュースは、「木ってすごい」です！！木を大切にしたいです。

すでに、この先追究したいことが見えてきてるEさんのように、「先生、木を見に山に行かないの？」「彫刻刀で彫ってみたい」「削って出た粉ももったいないから、何かに使えないかな」と各々が木に働きかけ、その働き返しを受けて感じたことを口々につぶやいていました。

まだまだ担任も木について知らないことがたくさんあります。長野県は面積の8割が森林であり、その大きさも全国3位です。そんな私達のくらしと密接に関わっている、木について子ども達と追究する中で、どんな発見、学びがあるのかワクワクしてきた活動のスタートになりました。

「木彫り」で感じる木の魅力

木彫りの魅力

僕は木を削っていると無心になります。それは、木彫りを楽しんで夢中になっているからです。木彫りにはたくさん難しいところがあって、今はそれを工夫して削っていくのが楽しいです。今日は、難しかったところがありました。それは、「削りすぎてしまう」ことです。具体的に言うと、一気にたくさん削ろうとすると、どんどん奥に入って行って削ってしまうということです。でも工夫して解決しました。それは、シンプルだけど焦らず少しずつ削ることです。削り方のコツをもっと見つけていきたいです。

だんだんコツがわかってきた！？

私は彫刻刀で木を彫る時に、なにかコツがあるかな？とっていました。でも、木を彫っている時に、「前回木を彫ったときと今回木を彫ったときと、なんか違うところがあるな」と感じました。その違うと感じた

ところは、前は固すぎて全然彫れなかったけど、今回はスムーズにいっぱい彫れたというところです。「あれ」と私は思いました。前回と今回と読み比べてみると、何か自然と「コツが知れたかも」と思ってきました。

木の魅力を探究している1組の子ども達。「石と違って柔らかい。削ってみたい」というEさんの意見から、彫刻刀を使っての木彫りに挑戦しています。石よりも柔らかいと言ってもやはり木。彫刻刀をもってしても、立体的に削るのは、至難の業です。

今回挑戦しているのは「バタール」や「コッペパン」。丸みがあるパンを掘ると木彫りの基礎が身につくということで挑戦しています。

まずは「粗削り」という作業。直方体の木片を真上から見た時に、パンのように丸みをつけるために削ります。彫刻刀をグーの手で持ち、下に向かって力をかけて削ります。

粗削りが終わると、全体のバランスを見ながら徐々に角を削っていきます。最初は、力の加減やコツが分からない子ども達は「全然削れない」と言いながら苦勞していましたが、回数を重ねるたびにそのコツを習得していきました。

Fさんは、「一度削ると角が2つできる。その角を削るとまた角ができる。できた角を削っていくのを繰り返していくと、だんだん丸くなっていく」と多角形が円に近づいていく姿のように木の断面を捉え、どこを削っていくのか考えていました。Gさんは、「1枚1枚皮をはぐような感じ、一気にいくと木が汚くなっちゃうから、あせらず少しずつ削っていくのがコツ」と教えてくれました。同じヒノキの木でも、人によって削りやすさが違ったり、ほんのわずかな木片でも部分によって硬さが違ったりすることを発見していく子ども達。それぞれが木に働きかけながら木に対しての捉え方を更新し、その魅力を探していました。

Hさんは、「マスクをしていても鼻まで匂ってくる魔法の匂い」と掘れば掘るほど立ち込めるヒノキの香りを楽しんでいました。その香りに目を付けたIさん。自分達の削ったあとにごみとなっていた木くずを集めます。次の日、裁縫セットをあげ、布を縫い始めました。「あの木くずの匂いももったいないから匂い袋をつくる」という作業を始めたのです。出来上がったミニサイズの中着袋からは、ヒノキのいい香りがしてきました。

時間はかかっていますが、その分木に馴染み、その魅力を味わっている子ども達。「まだまだ木の種類についても知りたい」「もっと他のものも掘ってみたい」と木に目が向いてきました。

「先生、登山の時、山に行くんでしょ。その時たくさん木があるじゃん。木についてたくさん知れるじゃん。その時までにもっと木について知っておきたい」と7月の登山ともつなげて考えている子どももいました。

私達の周りには、たくさんの木があります。それを捉える目、感じる心を豊かにしていきたいと思います。



「カプラ」という木の積み木。これも長野県産のカラマツでできています。工夫の仕方一つで楽しみ方が無限に広がるカプラの魅力も「木」だからこそ感じられる部分が多いです。

坂本さんと学ぶ「木」や「森林」について

北相木村でキノハナ(かんなくずからつくる花)を中心とした、森林に関わる活動をされている坂本さんから森林について学ぶ授業を行いました。

4年生の終わりにもワークショップでキノハナづくりを体験した子ども達ですが、今回は、「木」を追究しているということで、木や森林に関することを色々教えてもらいました。

事前にクラスで今まで木について学んで分かったことをみんなで話し合いました。すると、たくさんの木の魅力について子ども達から挙げられてきました。「たくさん種類があること」「におい」「触り心



地」「木が変身すること」「木目」「彫っている時の音の違い」「石と比べて加工しやすいから自分だけのものをつくれること」「自由自在」など木に働きかけてきた子ども達だからこそその発見した魅力を語っていきま

した。坂本さんと会える機会があることを知った子ども達は、もっと木について知りたいことを話し合い始めました。以前、国語で「木の博士レポート」を書くために色々調べた子ども達だったので、そこで明らかにならなかったことを疑問として挙げていきました。「長野の木の種類について知りたい」「木は切った後、どの部分

が使えるのか」「木でできている意外なものを知りたい」と意見が出る中、Jさんは、「森林破壊について知りたい」と意見を出しました。木の博士レポートで「森林破壊」について調べてきたJさんは、森林破壊は人の手で起こるのか、自然災害で起きるのかどちらの方が多いか知りたくなったようでした。そんなJさんの疑問から、「そもそも今私たちは、木を使った方がいいのか、使わないほうがいいのか」という疑問が生まれてきました。子ども達の考えは、現在木は使いすぎているのではないかという考えでした。

そんな疑問を持ちつつ、迎えた坂本さんとの出会いの日。まずは、坂本さんから木や森林に関わるクイズが出されました。「森林の役割として当てはまるものは?」「日本の森林をお金で換算すると、どれぐらいの価値がある?」「長野県の木の種類は何種類ぐらいあるでしょう?」など難問ぞろい。答え合わせでは、1つ1つ坂本さんが丁寧に説明をしてくださいました。

日本の森林は、日本のCO₂の約90%を吸収していること、日本の森林の価値は70兆円ほどになること、世界の森林破壊は1990~2000年は700万ha、2000~2010年は500万haであることなど、様々なことが分かりました。

そんな中、質問タイムでは、Kさんが、「僕たちでも森林に役立つことって何かできますか」ということを坂本さんに尋ねました。すると、坂本さんからは、「森林に対して考える習慣をつくることです」と教えていただきました。今の森林はどうなっているのだろうと考えることが、森林を守っていくことにつながる。まさに、坂本さん

とこうして森林のことについて交流することもつながっていくことであると分かりました。また、「木は使いすぎているのか」という質問に、「使いすぎとは言えない。どちらかという、国産材があまり使われていない」ということを教えてもらいました。子ども達からは、「えっ、なんで遠くの外国の木材の方が使われるの?」「なぜ、外国の方が安い木材になるの?」と改めて疑問が生まれてきていました。

木の魅力を探してきた子ども達でしたが、だんだんと木や森林が抱えている問題や活動を通じて自分達にできることにも目が向いてきています。夏休み明けには、再び坂本さんに来てもらい、キノハナのワークショップを行う予定です。また、別日には森林組合の方にも来ていただき、木についてさらに教えてもらう予定です。だんだんと木の専門家との交流を通じ、さらに視野を広げている子ども達と、今後も追究していきたいと思



坂本さんとの交流を終えての振り返り

- ・意外に自分は木のことを知っていたと思っていただけ、全然だったからもっと知りたくなりました。でも、思った以上に木の魅力がまだまだたくさんあった。もっと木のミュージアムを開きたくなってきた。やっぱり、今自分は木を使っていなかった。よく使っている木は、日本じゃなくて、アメリカの木だということに驚いた。木はどの部分も使えるからすごい。木のおかげでこの世界があると思う。なかったら、二酸化炭素はいっぱい出て、生物も住めなくなるし、水もたまらず、リラックスもできないから。
- ・木ってこんなに知らないことばかりだなと思った。森林伐採で世界では減っていて、日本は、森林が多い国なのに、あまり使われていないのは、変だと思った。日本ではあまり使われないから、使おうとしてキノハナを使っているのかなと思い、なぜキノハナを作っているのか分かった気がした。木のことをたくさん知ることができた、木のミュージアムをする時に、みんなに伝えたい。
- ・坂本さんのお話を聞いて、色々な知らなかったことをたくさん知れてうれしかったです。一番心に残った言葉は、「自分達次第で変わる」ということです。理由は単純かもしれないけど、「知る」だけじゃなく、知ったことから自分達の生活にどうつなげていくかが大切だと思います。私は木を大切に使ったり、どういことが木にとっていいのかを知ってみんなに教えてあげたりしたいです。このように、今日学んだことをみんなに共有してみんなで木のことについてもっと深刻に考えるのがいいなと思いました。最初よりすぐ色々なことを知ってこれから木とどう接していくかなどを考えるきっかけになれたので、今日坂本さんのお話を聞いて良かったです。